

事務事業チェックシート

事務事業No 698 事業名 特別陳列事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	5	郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進
施策	3	文化財の保護・活用
取組方針	2	文化財の活用

事業種別	継続	
事業期間	～	
事業実施の根拠法令	博物館法・和歌山市立博物館条例	
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	博物館	額田 雅裕 (423-0003)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		社会教育費	
	目		博物館費	
	大事業		博物館事業	
事項		特別陳列事業		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容				
	館蔵資料を中心に展覧会を構成し、市民に有用な話題を提供することによって、市民文化の向上に寄与する。	会期を春(4月から6月)と冬(1月から2月)に、公開日数それぞれ約50日程度で設定し、館蔵資料を中心として展覧会を構成する。集客ツールとしてポスターは配布するが、図録は発行しないが、展示資料目録を配布する。なお、冬の特別陳列は、毎年小学生社会科の単元『移り変わる私たちのくらし』に対応した民具・農具を展示し、市内外から多くの小学生の団体見学を誘致している。				
実施内容		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		館蔵資料を中心に「和歌山歴史再発見」を春に開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に開催する。	館蔵資料を中心に「古文書から探れ」を春に開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に開催する。	紀州藩主から江戸幕府8代将軍に就任した徳川吉宗に関する資料を展示し、「明君」と呼ばれた吉宗と紀州藩を紹介する。	館蔵資料を中心に「紀州の風景」を春に開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に開催する。	館蔵資料を中心に「紀州の風景」を春に開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に開催する。

2 事業コスト

事業費等 (千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	270	235	268	268	246	272	206			
伸び率 (%)	-	-	▲0.7%	14.0%	▲8.2%	1.5%	▲16.3%	▲100.0%	▲100.0%	-
人件費	正規職員	3,647	2,997	3,647	2,579	2,579	2,697	2,697		
	正規職員以外	0	0	0	609	609	566	566		
小計	3,647	2,997	3,647	3,188	3,188	3,263	3,263			
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源 (税等)	270	220	268	268	246	272	206			
所要人数 (人)	正規職員	0.50	0.40	0.40	0.35	0.35	0.35	0.35		
	正規職員以外	0.00	0.38	0.38	0.33	0.33	0.29	0.29		
主な予算内訳	印刷製本費119千円等									

3 目標及び実績

指標名	単位	目標値	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
活動指標 特別陳列開館日数	日	目標値	83	83	83	83	
		実績値	77	79	77		
		達成度 (%)	92.7%	95.2%	92.8%		
成果指標 特別陳列入館者数	人	目標値	3,600	3,600	3,600	3,600	
		実績値	4,057	5,189	5,634		
		達成度 (%)	112.7%	144.1%	156.5%		
		目標値					
		実績値					
		達成度 (%)					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	この事業は、館所蔵品や民間からの寄贈品を元に開催するため歴史博物館に対し、理解のある市民の好意のうえに成り立っている。また、小学生が授業のため来館する際は、様々な知識が必要なため、数少ない学芸員が時間をやりくりし説明や質疑応答の対応を行っている。
見直し・改善内容	「歴史を語る道具たち」における展示資料は、明治から昭和初期にかけての民具・農具が多い。小学校の社会科カリキュラムに対応した内容となっているが、今後、戦後から昭和30~40年代にかけての資料も収集してゆく必要がある。